はっけん

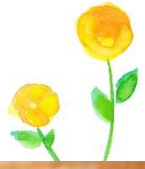
九州手話サークル連絡協議会　2021 年 4 月発行

今年の桜もきれいでした。みなさま、すこやかにお過ごしでしょうか。
今回のはっけんは、コロナ禍の中でもいろいろと工夫された各県の活動を紹介します。去年の今頃とは雰囲気も変わり、新しいものを取り入れながら活動をリスタートされている様子が寄せられています。
今年は少しずつイベントも再開され、みなさんとも再会できるのを夢見つつ・・ぜひじっくりとお読みください。

大分県手連研修会（大分）

大分市手話サークルはぐるまの受講の様子

令和 2 年 12 月 20 日に県手連研修会が行われました。
今回の研修会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、Web 会議サービス Zoom を使って行われました。
講師は大分県立聾学校実習教師の河津知子氏で、「聾学校の現状と今後について」をテーマで講演していただきました。ろう教育の歴史、ろう学校の現在の様子、課題、コロナ禍における対策などのお話でした。
Zoom を使っての研修会は初めての経験でした。私個人は自分の家で参加しましたが、個人的にできない環境の方もいましたので、各サークルで会員が集まり研修を受けたところもありました。大分市手話サークルはぐるまも総合福祉会を借りて、15 人ほどで受講したそうです。



大分県手話言語条例が可決

令和 3 年 3 月 5 日に大分県議会で、大分県手話言語条例が本会議において全会一致で可決されました。
また、条例可決後には、議会として手話の普及を図るため、議員を対象とした手話講座を開催しました。

大分県　別府手話サークルにじ夜
高治克己

大分県聴覚障害者協会会員による手話講座での県議らの様子

耳の日福祉大会（長崎）

長崎県では、一般社団法人長崎県ろうあ協会主催（県手連協力団体）で毎年開催している「耳の日福祉大会」が、昨年中止となり２年振りの開催となりました。

内容は、全日本ろうあ連盟創立７０周年記念映画『咲む』の上映会です。

新型コロナウイルス感染**症**対策も万全の態勢で、午前・午後２部入替制で約 170 名が集まりました。

この映画には、長崎県在住の山中蓮媛さん（平子はるひ役）が出演しており、上映会の前にはインタビューも行われ、映画の裏話を聞くことができました。

参加されたサークル会員へ感想をお聞きしました。

３月１４日（日）、久々に手話のイベントに参加するため、東彼杵へＧＯ！

私はサークルのメンバー３人と、午前の部に参加した。

受付時から懐かしい顔、顔、顔。講座でお世話になった先生方、イベントで知り合った他のサークルの方。みんな元気そう！嬉しい！あちらこちらで飛び交う手話。

そうそうこの感じ。

手話が未熟な私にとって、手話で話しかけられたらどうしよう。

でも、せっかくだから手話で話したい！

手話のイベントは私にとって、この二つの気持ちが入り混じり、独特の緊張感がある。そんな中、耳の日福祉大会は開会した。

「咲む」と書いて「えむ」と読む。映画好きの私はどんな映画なのだろうとワクワクした。

佐世保から出演していた、可愛い高校１年の「山中蓮媛」さん。目の前の山中さんがスクリーンの中では、他の役者さんと引けを取らない自然な、堂々とした演技で大きく見えた。手話もすばらしい！

映画の内容も、身内でも時として受け入れられない心情や本当に働きたい場所で雇ってもらえない環境の中、主人公の女性は前向きに、今自分にできることを探し、生き生きとしていて、関わった人々の気持ちを変えていく。その姿は凛として、観ているこちらも元気をもらった。

そして彼女とともに行動した役所の人の姿を自分と重ね、私ももっと手話で会話できるようになりたいと思った。この気持ちを忘れず、手話を学んでいこう！と。

この大会に参加してよかった！

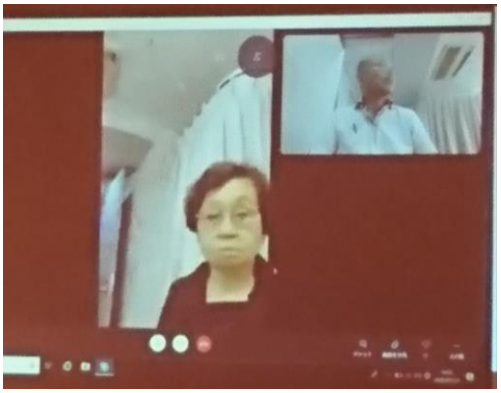
この映画をもっと多くの人に観てもらいたい！そう思わずにはいられない時間だった。スタッフの皆様、ありがとうございました。

西海市手話サークル「虹」　橋本　直実

福岡県手連の
遠隔手話通訳事業導入の取組（福岡）

昨年４月、新型コロナウィルス感染症対策として、国は緊急事態宣言を発出するとともに「コロナ緊急経済対策」を打出したことに伴い、福岡県でも 700 億円を超える第１次補正予算を決定し、聞こえない人に対する情報保障と手話通訳者の感染リスクを軽減するため遠隔手話通訳サービス導入に必要な予算を確保したことを受け、県の手話通訳事業を受託する県手連として予算要望協議を行い県補助金にて県手連事務室内にパソコン ２ 台と端末タブレット ４ 台を新規購入しこれらの機器にビデオ通話アプリ（LINE･Skype･Zoom）をダウンロードしてろう者等が持つ各種端末との通信開始を可能とした。

本事業は既存の福岡県手話通訳者派遣事業の一環として実施するものであり、導入時の設備費や通信費を含む経常経費は通常の県派遣事業予算において対応することとなった。



事業に必要な準備が整った後、県認定試験等々で協同する福聴連の協力を得て機器操作マニュアルを作成するとともに、利用者に向けた啓発チラシ及び啓発動画（DVD）を作成し、県内のブロックごと 18 会場で利用者説明会を開催して遠隔手話通訳事業の実施に向けて啓発活動を展開した。

いうまでもなく、聞こえない人に対する情報保障は当事者の言語を基本に手話や要約筆記等の意思疎通手段を原則とすることは当然であり、ここで提供する意思疎通支援は「直接対面」が基本である。

この原則を堅持しながら、新型コロナ感染症対策の中で医療機関や保健所等における情報保障手段として限定的に使用する遠隔手話通訳の役割について具体的な課題等々を整理していくとともに、今後は遠隔手話通訳サービスの活用法として災害発生時等の情報保障も含めて遠隔手話通訳事業の存在と役割について、県及び市町村行政機関や医療機関等々へ周知を行いながら、既存の市町村手話通訳者設置事業、及び市町村手話通訳者派遣事業との効率的な連携を求めていく。

高齢者サロンの歩み（佐賀県）

佐賀県では、佐聴協と佐手連合同で高齢者サロンを 2016 年 12 月に立ち上げ、今年で５年目。

当協議会会長（南里トミエ）がサークル以外に気軽に集まり交流、情報交換ができる場所を作って高齢者が活き活きと毎日を過ごせるような場所を作りたいと長年思い続けていましたが、自身も講師や通訳に時間、タイミングもありませんでした。

しかし、佐賀県の高齢ろう者が活気がないまま生活をさせてはいけない！との気持ちが強くなり佐聴協へ話を持ち掛けたのが始まりです。

それから、長崎県諫早市の「特定非営利活動法人ひまわり」に見学にいき、作業の様子や活動支援の話を聞き交流をさせていただきました。そこに通っている方々は明るく楽しそうに今を生きている様子がうかがえました。

見学の１か月後に試験的に集まってみようとはじめ今に至ります。

立ち上げ当初は月１回（第３木曜）集まり、何かを作るのではなく、ゲームや交流をする程度でしたが、内容にも限界が出始め、途中からバザーで販売できるように何かを作ろうと決め今では月２回（第２・４水曜）開催し、小物つくりや縫製（洋服の補正）をしています。

諫早の「ひまわり」作業所を見学（2016年11月）

高齢者サロン立ち上げ（2016年12月）

これまで、広告紙の籠、お手玉、手提げバック、マスク等たくさんの物を作り、社会見学、オセロ大会、忘年会の交流を通じて活動してきました

今年度（2021 年）は、今までの集まって好きなことをする高齢者サロンではなく、聴覚障害者が、コミュニケーションの壁を感じることなく過ごせ、ろう学校の専攻科で身につけた技術を活かし手芸・木工などの雑貨作りの作業をし、ろう者の言語である「手話」の魅力を伝える交流の場として、また、来年（2022 年）４月には佐賀市より助成金をいただけるように新たなスタートの準備をしています。

３月２４日に佐賀県聴覚障害者サポートセンター内に無人販売所を設置しました。

全日本ろうあ連盟70周年記念映画
「咲む」の上映会（鹿児島）

令和２年度の活動は、コロナ禍の中、ほとんどできていないのが現状。その中で、何とか開催することができたのが、昨年 12 月 6 日に開催された全日本ろうあ連盟 70 周年記念映画「咲む」の上映会でした。

最初は大丈夫？コロナ感染起きたらどうしよう、など危惧されましたが、万全の態勢でやろうということになり、聞こえる団体からも多くののボランティアを募り開催されました。場所も県内では大きな宝山ホールで、上映会来場者数、午前午後合わせて 579 名となりました。

受付も直接会話することなく、透明のビニールを挟んでの会話となりました

ホールにある検温器をお借りしました。
歩くだけで体温が測れる素晴らしいものでした。

上映は午前午後の二回行いました。
午前が終了後に、いす、手すり等を消毒しました。

座席も会場定員の半分以下に抑えました。皆さん安心してご覧になれたようです。

※観覧後の感想・・ほとんどの方が感動、感動、とのことで、涙をふくタオルが２枚必要という声もありました。まだの方は忘れないようにお持ちくださいね。

鹿児島手話サークル太陽　塩屋

熊本市耳の日事業（熊本）

熊本市の手話言語条例は、2020（令和２）年度から施行されています。すでに全国では 383 の自治体（全日本ろうあ連盟調べ 2021.3.19 現在）で制定されているそうですが、そのことが具体的にろう者の社会生活の豊かさにつながるかどうかは、制定後の取り組み如何だと言われています。

そこで、熊本県手話サークルわかぎ熊本グループ（熊本市わかぎ）では、熊本市社会福祉協議会から助成を受け、熊本市ろう者福祉協会（熊本市ろう協）の協力を得て、昨年６月から調査研究事業を行いました。

調査では、まず条例が施行されていることを知っているか、条例内容を知っているか、条例によって聴覚障害についての理解や手話は広がってきたかから始まり、さまざまな項目を立て、ろう者の社会生活上の課題を把握しようと試みました。

当初は、対面による調査を計画しましたが、コロナ禍でできず、熊本市ろう協会員を対象として郵送による調査を行いました。ただ、日本語が苦手なろう者も少なからずいますので、調査用紙に QR コードを載せ手話動画とリンクさせ質問文の全部と一部の回答選択文を手話で確認できるようにしました。

調査書送付数は 165、回答数 75 で、回答率は 45.5%でした。

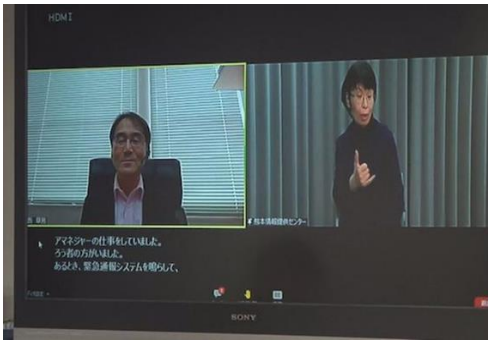
この結果は、３月末に報告書を作成し関係団体・機関に配布することになっています。

この調査結果の概要を踏まえ、今年２月 14 日（日）に熊本市ろう協と熊本市わかぎの共催で耳の日事業として、調査結果報告とシンポジウム（パネルディスカッション）を Zoom のウェビナー形式で開催しました。Zoom でのミーティングは、すでに熊本市わかぎ役員会等で使い、慣れていましたが、ウェビナーは初めての取り組みでした。

メイン会場

ウェビナーは、県の情報提供センターをメイン会場として、そこにホスト（ウェビナー主催者）・司会進行・２名のパネリストを配置、ほかの２名のパネリストはそれぞれ別会場からリモート参加、さらに手話通訳も別室で行い、また４名の文字通訳は各家庭からの支援を受けるという、初めてにしては大がかりなシステムを構築しました。

本番前に何度かリハーサルを行い、うまくいくことを確認していたのですが、いざ始まると、パネルディスカッションに先だって配信する手作り手話・字幕入りの調査報告映像が止まってしまうというトラブルに見舞われたり、システム構成が複雑だったため表示画面の切り替えや音声の調整等がスムーズに行かず、出演者・スタッフ共々冷や汗を流しながらの進行でしたが、２時間、どう



Zoom ウェビナー画面

やら無事に終えることができました。
　設定によりますが、Zoom ウェビナーは終了すると参加者をアンケート画面に誘うことができ、その回答を自動集計してくれます。おっかなびっくりそれを見てみたのですが、参加された方々のほぼ全員からよかったとの回答をいただき、また励ましのことばが書かれていて感激しました。また、ウェビナーは進行映像を自動的にクラウド録画することができますので、それをダウンロード・編集・DVD 化しています。これは、50 部作成する事業報告書に添付することにしています。

熊本市わかぎ　小野康二

編集後記

　年度末･始めのお忙しくまた大変な状況の中、各県みなさまのご協力で はっけん令和３年（2021 年）4 月号を無事に発行することができました。ありがとうございました。
　コロナ禍も１年が過ぎ、みなさまの活動の様子は久しぶりに「光」を見る感じがしました。よろしければ、九手連 HP「掲示板」まで感想などお寄せください。

九州手話サークル連絡協議会 発行責任者 池尻和吉
事務局長 森保夫
広報誌担当 田中沙織（長崎県）